



令和3年度 学校だより

はがきた

第5号 令和3年9月10日

教育目標

集中して学び、生命と人権を守り、生きる力の基礎を身に付けた子どもを育成する。
『学ぶ子 守る子 がんばる子』

2学期、始めました！

9月に入り、天候不順が続いていますが、保護者の皆様におかれましてはますます御健勝のことと思います。二十四節気では9/7(火)に白露(はくろ)を迎えました。「白露」とは、「草花に朝露が付き、白く輝いて見え始める頃」といわれます。そういえば、いつの間にか朝夕が涼しくなり秋が進んでいるように思います。

さて、9/1(水)に始業式を行い、2学期が例年通り始めました。42日間という長い夏休み、児童も保護者の皆様も、コロナウイルス感染症の影響で、思うような過ごし方はできなかったと思いますが、それぞれの夏を有意義に過ごしたのではないのでしょうか。夏休み明けに児童を見て感じたことは、一人一人の成長です。それぞれが、この夏休み期間中に大きくなったように感じたのです。それは心も体もです。昨年度は16日間の夏休みだったのでさほど感じなかったのですが、42日間というのは、子どもたちにとって大きく成長できる期間なのですね。そういった児童の成長を支えていただきありがとうございました。2学期は、4か月に及ぶ長い学期でさまざまな行事がある児童の活躍が楽しみな学期です。十分な活動ができるよう御協力お願いいたします。



コロナ感染症予防対策のお願い!!!



現在、栃木県には、コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言が出されています。最近になり感染者数の減少が見られるようになりましたが、依然としてその数は多く、医療の逼迫が報告されています。1日の始業式では、今最も気をつけてほしいということで、コロナウイルス感染症対策の話をしました。今この状況は、今までに経験したことのない状況です。変異株の影響と思われる、子ども同士の感染が増えてきているとも聞いています。その中で学校の再開には正直不安があります。ただ、この先のことを考えると、全ての活動を止めてしまうことは現実的ではないと思います。どうすれば実施できるようになるのか、昨年も同じように考えて実施してきました。小学校生活は6年ありますが、今この瞬間は今しかありません。なんとか実施できるようにしていきたいのです。状況に合わせて計画を変更しなければならないことは事実です。しかし、全く行わないのではなくできる方法を探していきます。御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

新しい学習指導助手の先生が来ました!!!

2学期から新しい学習指導助手の高山千春先生が本校に赴任されました。高学年のTTを中心として様々な場面で関わっていただきます。児童のみなさんには早く高山先生を覚えてもらい、いろいろな活動と一緒に活動してほしいと思っています。高山先生、よろしくお願いいたします。



9月の主な行事

- 1(水) 始業式 委員会④
- 2(木) 身体計測①
- 3(金) 身体計測②
- 5(土) 東京パラリンピック閉会
- 6(月) 身体計測③ 防パト委バス指導①
- 7(火) 身体計測④
- 8(水) 2年ブレインジム 身体計測⑤
- 9(木) 身体計測⑥



- 10(金) 身体計測⑦
- 13(月) 安全点検 防パト委バス指導②
- 17(金) 管理訪問
- 20(月) 敬老の日
- 21(火) 読み聞かせ 3年ブレインジム
防パト委バス指導③
- 22(水) 北小タイム
- 23(火) 秋分の日



☆児童たちの活躍・学校生活の様子☆

【始業式】(意見発表)



【英語授業】



【フレイジング】(2年)



【タブレットを使った授業】



東京パラリンピック大会を終えて

8月24日(火)から9月5日(日)までの13日間、東京パラリンピックが行われ、大きな感動に包まれました。「パラリンピック」の名称は、1964年、前回の東京大会で日本人デザイナー、高橋春人氏がポスター制作時に考案した「パラプレジア(下半身まひ)+オリンピック」の造語だそうです。88年のソウル大会から正式名称となり、現在では四肢の損傷や視覚障害、脳性まひなどに参加選手の範囲を広げて「パラレル(もう一つの)オリンピック」の略とその定義を変えています。「パラリンピックの父」と呼ばれる英ストーク・マンデビル病院のロードウィッチ・グットマン医師は「失ったものを数えるな。残された機能を最大限に生かそう」との言葉を残し、これが大会の精神となっているそうです。

この「失ったものを数えるな。残された機能を最大限に生かそう」という言葉は、パラリンピック競技を見ているときに何度となく報道されていました。ひょっとして、私たちは、手や足に障害があるのによく頑張った、というだけの見方をしていないでしょうか。あれだけの感動を覚えたのは、自分を最大限に生かしていこうと努力している姿を見ることができたからではないでしょうか。自分の見方・考え方をもう一度考える機会となりました。



「経営の神様」と呼ばれる松下電器の創始者、松下幸之助さんには、「ないものを嘆くな。あるものを活(い)かせ」の名言があります。いわんとする哲学は同じであり、パラ大会のテーマは、経営の理念にも、あらゆる事案にも共通しているように思います。が、多様性を認め合う世界、まだまだ難しさを感じます。

私たちの周りには多くの人たちがいて、それぞれ学校には個性豊かな子どもたちがいます。今ある自分の長所を生かしてこそ、自分は輝けるのだと思います。もちろん子どもたちはこれから獲得していくことが数多くあります。今もっているものだけでは計り知れません。無限の可能性がある、といったところでしょうか。私は教師として、無限の可能性のある子どもたちと、しっかりと向き合っていきたいと思います。

パラマラソン視覚障害のクラスで金メダルに輝いた道下美里選手は、「1人じゃできないことは2人でやればいいし、2人でもできなければ、3人、4人。本当に、仲間がいればできることは増えていく。可能性は無限大なんだってことが、見てる人に感じてもらえたらうれしい」と話しています。



※芳賀北小ホームページでは、カラーで学校だよりを掲載しています。ぜひ御覧ください。